

井原市公共交通会議（平成 28 年度第 4 回）議事録

と き 平成 29 年 2 月 28 日（火）

10 : 00 ~ 11 : 10

ところ 井原市役所 4 階大会議室

1. 開 会

会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 25 名中 24 名（実出席 22 名、代理出席 2 名）

委員の異動について（井原交通株式会社：妹尾委員の後任・本井暎通委員）

2. 報 告

井原市地域公共交通網形成計画の実施状況について

・ 事務局説明

（三宅会長） 委員の皆さんから、ご質問等はないか。

（委 員） 利用促進において新たに放課後児童クラブで体験学習会があったのは、非常に良いと思う。例えば、小学校等での遠足の際に公共交通を利用するよう、こちらから学校へ依頼をすることはできないか。乗った体験ができれば、親を含めた利用促進に繋がるのではないか。

（事務局） 学校への依頼は行っていないが、ある幼稚園では、バスを利用した遠足の約一週間前にバス体験学習会を開催して、そこで学んだことを遠足に生かそうとしている。また、バス体験学習会では、昨年度からは実際にバスに乗車して、近くを周るという体験メニューを取り入れている。

（委 員） バス利用者アンケート調査では、乗務員の接遇に不満を感じる人の割合が 7.9%となっているが、例えばどのような不満なのか。

（事務局） 不満に感じた接遇内容まで把握してはいないが、昨年度の調査では、自由意見として「乗務員の態度・言葉が荒い」という意見があった。今年度の調査では、そのような意見は無かった。

（委 員） 私は、井原鉄道をよく利用しており、駅係員や運転士の気持ちよい声掛けにいつも感謝している。しかし、先月の下旬に、井原駅で高齢の女性が電車に乗ったお孫さんが手招きをしたため少しだけホームに入っただけで戻った時に、駅係員が強い口調で入場券の購入を促していたのを見て、心が痛んだ。「切符を買わないと、中には入れないのです。今度から気を付けてくださいね。」と、やんわりと注意すればよいのに、あの言い方では、「もう二度と乗らない」という気持ちになりかねない。気を付けてもらいたい。

（三宅会長） 普段は良い接遇をしてもらっているが、こういうこともあったので気を付けてほしいということである。様々な事業を推進していく中で、苦情が出ないことを求めている。バスの乗務員の接遇に不満を感じている人の割合は、本年度実施したアンケート調査の結果では 7.9%ということで目標を達成できている。各交通事業者においては、この値をできるだけゼロに近づけるための取組を進めてもらえるとありがたい。

3. 協 議

1) 自家用有償旅客輸送（芳井・美星）運行経路の変更（案）について

・事務局説明

- （三宅会長） 委員の皆さんから、ご質問等はないか。
ご質問等がなければ、原案のとおり承認してよいか。

委員拍手（原案のとおり承認）

2) 運行見直し基準に基づく路線・ダイヤの見直しについて

・事務局説明

- （三宅会長） 委員の皆さんから、ご質問等はないか。
- （委 員） 運行実績について、「井原～美星支所・黒萩・宇戸谷線」は、年間1便当たり利用者数が1.6と示されているが、乗降調査による市内区間の1便当たり利用者数は斜線となっている。乗降調査に基づく実績値はいくらなのか。
- （事務局） 年間1便当たり利用者数は、各バス事業者が算出している年間の利用者数から割り出した値である。市域をまたぐ路線については、市内区間の利用者数を把握する必要があるため、各バス事業者が実施した7日間の乗降調査に基づく実績値を記載している。
- 市内のみの路線においても各バス事業者が乗降調査を実施しており、「井原～美星支所・黒萩・宇戸谷線」については、前回の会議で報告した1便あたり2.1人という値が7日間の乗降調査に基づく実績値である。
- （委 員） いつも乗っていた人が乗らなかつたり、逆に、普段は乗らない人が乗ったりすると、7日間の乗降調査に基づく値であっても、変動が生じてしまう。できれば、もう少し定期的・継続的に調査する仕組みが望ましい。手作業でカウントするのは乗務員の負担が大きいということであれば、自動計測できる機器を車両に搭載することはできないか。いずれにしても、利用者数は、増便や減便の判断に直結する重要な値である。低コストで、もう少し長い期間調査をする仕組みを構築してはどうか。
- （事務局） 自動計測による機器の導入・運用コストがどの程度なのか把握できていないが、今後の検討の材料としたい。
- （委 員） 特に、利用者数がボーダーラインにある路線については、ある程度重点的、定期的かつ長期的に把握することが望ましい。
- 先ほどの駅係員の接遇の話にも関連するが、乗務員の対応によって、公共交通全般に対する住民の意識は随分と変わってくることを、数年前にこの会議の場で発表をさせていただいた。そのことから考えても、乗務員にはきちんと運転をして、乗客へきちんと声を掛けてもらうことが重要である。安全運転や声かけをしっかりとってもらうためにも、機械的な方法で利用者数を計測できるとよい。ぜひとも検討してもらいたい。
- （三宅会長） 確かに、乗務員に対して利用者数を計測するための長期的な負担をお願いするのは難しい。乗降調査に基づく数値を使わせていただきながら、作業量や費用の負担がかからない方法を考えていきたい。

(委員) 予約型乗合タクシーについて、運行対象区域以外の住民しか利用することができないのか。例えば、芳井町吉井追崎の住民が、当該地区を通過する天神山・上野・西吉井エリアの予約型乗合タクシーに途中で乗せてもらうことはできないか。

また、民間路線バスの利用者数は、全て平成 27 年 10 月 1 日から 28 年 9 月 30 日までの 1 年間の実績値なのか。

(事務局) 1 点目について、予約型乗合タクシーを利用することができるのは、当該運行対象区域に居住する住民で事前の利用登録をした方だけである。追崎地区は運行対象区域に含まれていないため、利用することはできない。

2 点目の利用者数について、集計期間は 1 年間であるが、民間路線バスの年間 1 便あたりの利用者数は、毎日の実績値を 1 年間積み上げたものではなく、各バス事業者の方法により算出した値である。また、乗降調査による市内区間の利用者数は、各バス事業者が実施した 7 日間の乗降調査に基づく実績値であり、これも、毎日の実績値を 1 年間積み上げたものではない。

(三宅会長) どちらの数値を用いるにしても一長一短であることから、2 つの数値を兼ね合わせて考えたい。

(委員) 昨年来、井原あいあいバスの 3 路線を利用してみたが、集落を縫うように走っているにも関わらず、利用者が少ないのはなぜか。1 つ感じたことは、座席の支えがパイプでありクッションが悪いことである。また、カーブ等でもう少しスピードを緩めてもらえると揺れが少ないのではないだろうか。

(三宅会長) 私が井原あいあいバスをこれまでに利用したときは、座席のクッションについてはあまり意識しなかった。利用者は高齢者が多いことから、自宅に近いところまで細かく走るという考え方に基づいて、集落を縫うような路線になっている。

また、カーブを曲がる際に時に気を付けるのは当然のことで、以前にも事業者に対してお願いをしたことがある。最近では、乗務員が乗客に積極的に手を差し伸べるような対応も多く見受けられる。一利用者の貴重な意見として承っておきたい。

(三宅会長) 委員の皆さんから、ご質問等はないか。
ご質問等がなければ、原案のとおり今後進めてよいか。

委員拍手 (原案のとおり承認)

4. その他

(事務局) 昨年の 11 月末をもって井原～高梁線の運行を終了した備北バス株式会社の委員においては、委員の職を引かれ本日の会議が最後の出席となる。一言挨拶をお願いしたい。

(委員) この会議に弊社から委員として出席するのは、本日が最後となるため、少し時間をいだだいて挨拶をさせていただきたい。

井原～高梁線は、昭和 26 年 10 月に八日市経由の系統を設けて以来、65 年

間にわたり、井原市の皆様方に支えられてきた。私が備北バスに入社した20年以上前には、成羽から青野経由で井原へ向かう路線と、この度廃止となった芳井経由で井原へ向かう路線の2系統があり、学生の皆さんや通院・買い物等の目的で多くの方に利用していただいたと記憶している。井原～高梁線の廃止後は、井原あいあいバス「ごんぼう村線」の延伸により地域の皆さまの足が確保されていることに安心している。最後になるが、今後ともこの会議が地域の皆さまのより良い生活の公共交通の手段の確保のために有意義なものとなるよう、また、井原地域の更なる発展と、皆さま方の活躍と健康をお祈りし、最後の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

5. 閉 会

以上